

歴史総合

1 以下は、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけての時期をめぐって「歴史総合」で学んだことについての、先生と生徒のやりとりである。二人のやりとりと史料を読み、以下の問に答えなさい。〔60点〕

先生：まずは第一次世界大戦がその後の政治に与えた影響についておさらいしておこうか。史料 [A] を読んでみよう。

[A] 林田敏子「第一次世界大戦と女性」

第一次世界大戦は、軍事技術の飛躍的な発展がもたらした塹壕戦と戦線の膠着化によって、4年を超える長期戦となった。軍事物資を絶え間なく前線に供給する必要から銃後を巻き込む①が展開し、女性は様々な形で戦争に動員された。「女らしい」戦時奉仕として多くの女性が従事したのが救急活動で、イギリスのボランティア救護部隊には1918年時点で8万人が登録し、ドイツの女性従軍看護師は約9万人と医療スタッフの4割を占めた。戦前、主に繊維業・縫製業・家事サービス業に従事していた女性たちは、軍需工場をはじめ、バスやトラムの運転手、機械工といった「男の職業」にも進出した。ドイツ・イギリス・フランスなどでは、より多くの男性を前線へ送り込むために、軍隊内の非戦闘任務を担う女性部隊も組織された。西ヨーロッパの国々では女性に戦闘資格は与えられなかったが、ロシアやセルビアなど東部戦線では女性兵士の姿もみられた。銃後にとどまった者たちも、別の「戦い」を強いられた。多くの国で食糧配給制が導入され、空襲に備えて灯火管制が敷かれた。空襲のみならず、敵軍の侵略や占領によって、銃後はいつ戦場に転化するかわからなかった。

〔出典：山口みどり／弓削尚子／後藤絵美／長志珠絵／石川照子編著『論点・ジェンダー史学』ミネルヴァ書房、2023年。〕

先生：第一次世界大戦が終わった後、イギリスやドイツ、アメリカなどで女性参政権が実現したことは歴史総合の授業で学んだよね。国家が労働力や物資を全面的に動員する①を経験したことは、そうした動きとどのような関係が

あるだろう？

生徒：この史料にもあるように、戦争をきっかけに女性の社会進出が進んだからではないでしょうか。「男の職業」で働いたり、女性部隊に参加したり、銃後で戦争を支えたりしたことで、男性と対等な存在として認められるようになったのかな。

先生：そうだね。すでにそれ以前からヨーロッパで女性参政権運動は活発だったし、そうした積み重ねも大きいとは言われているけれども、戦争協力に対する見返りとして選挙権が拡大したという面は重要だよ。日本は第一次世界大戦で①を経験したとは言えないけれども、人びとの政治参加がさまざまな点で広がっていったという点は同じなんだ。その象徴が、発行部数が数十万部に及んだ大衆雑誌『キング』だ。史料 [B] を読んでみよう。

[B] 佐藤卓己『キングの時代』

『キング』の成功は、政治の舞台への「大衆」の登場という第一次大戦後の巨大な社会変化と対応している。

〔中略〕第一次大戦は史上初の思想戦であり、ドイツ「軍国主義」に対する連合「民主主義」の防衛戦争として宣伝された。建前であれ「民主主義」の側に立って参戦した日本でも、大衆の政治参加を抑えることは難しくなっていた。その意味で、いわゆる②の目標も、大衆が世論形成に参加するシステム、すなわち大衆的公共性の確立ということができた。〔中略〕

『キング』創刊号が準備されていた1924年6月、第二次護憲運動の勝利を背景に加藤高明内閣が成立し、1925年3月第50議会において25歳以上の男子を有権者とする普通選挙法案が成立した。また、『キング』創刊後の発売1週間後には、婦人参政権の実施をめざす婦人参政権獲得期成同盟会（翌年、婦選獲得同盟と改称）も結成されている。「財産と教養」を入場条件とした市民的公共性（圏）の名望家政治が、「国籍と言語」を条件とした国民的公共性（圏）の大衆民主主義へと大きく開かれたのも、この1925年である。

創刊号巻頭言「燦(さん)たりキング出現」にも、普通選挙と大衆民主主義の刻印は明確に浮かび上がっている。

「〔中略〕庶幾(こいねが)うところは我が国民の全部にわたり、職業・階級・貧富貴賤の差別なく、老若男女、知識あるものも、知識なきものも、翕然(きゅうぜん)としてここに集まり、限りなき興味をもって耽読(たんどく)しつつある

間に、自ら高尚なる気品と、堅固なる道念とを涵養せられ、一世是によってその風を改むるに至らんことである」。

〔出典：佐藤卓己『キングの時代—国民大衆雑誌の公共性』岩波書店、2002年。〕

先生：この頃日本でも「名望家政治」から「大衆民主主義」へと社会が変わっていったこと、そして「大衆的公共性」というものが生まれつつあった、ということが書かれている。ここで言われている「大衆的公共性」ってどういうものだと思う？

生徒：ちょっと難しいですけど、『キング』創刊号の巻頭言にある「職業・階級・貧富貴賤の差別なく、老若男女、知識あるものも、知識なきものも」というところが重要なんじゃないかな。それまでみたいに、一部のお金持ちや高い教養を身につけた人びとだけじゃなく、ありとあらゆる人びとが政治に参加していく、ということでしょうか。

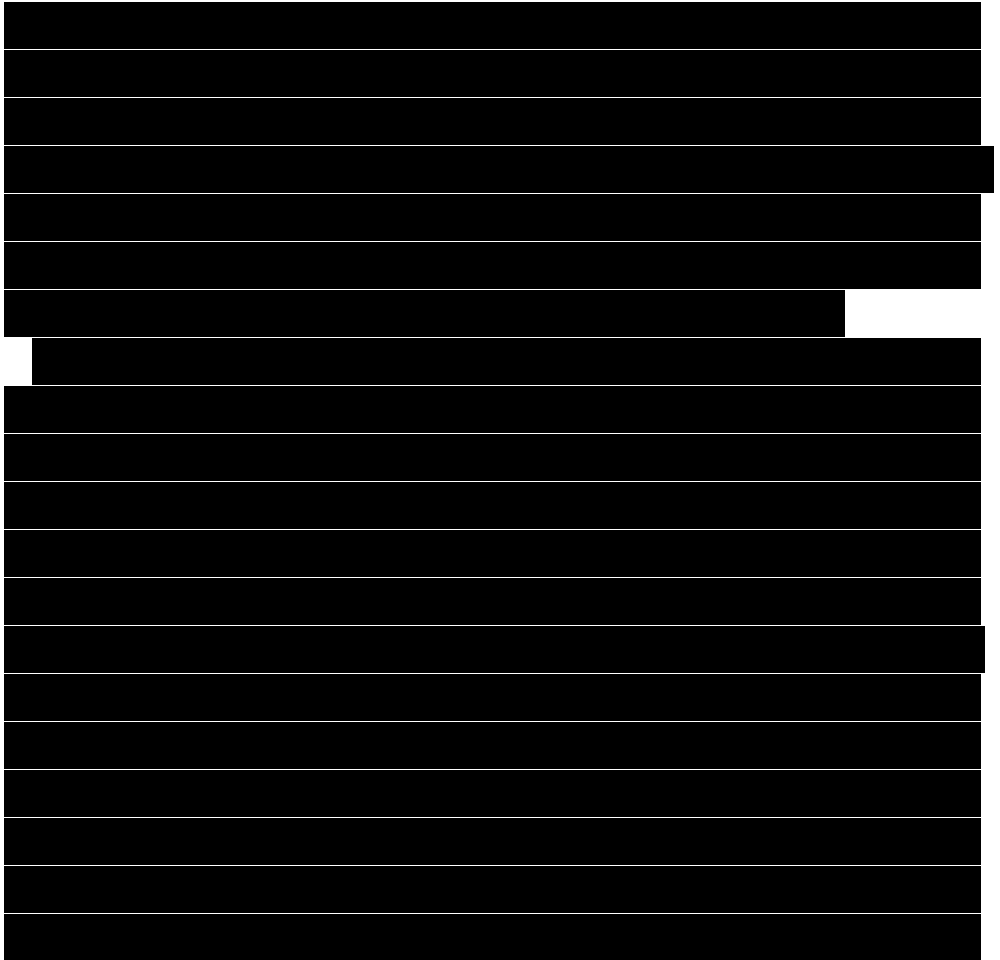
先生：素晴らしい！こうして世界の様々な地域で人びとの政治参加が進んでいくんだ。③フランスの植民地だったベトナムやイギリス植民地のビルマ（現ミャンマー）みたいに、こうした影響を無視できなくなって、部分的にはあるけれど、現地の人びとの政治参加を認めるようになっていった植民地もある。

生徒：ところで、この時期の「大衆化」といえば、映画とかジャズ音楽とか、新しい家電製品といった都市文化や大衆消費社会が花開いたということも勉強しました。

先生：そうだったね。そして、その象徴だったのがやはり女性だったんだよね。史料 [C] を見てみようか。ブランスクっていう、ポーランドの小さな町についての文章だ。「シュテットル」というのはユダヤ教徒がたくさん住んでいた町で、多くの人たちはユダヤ教の伝統的なしきたりをよく守っていたんだ。20世紀になっても特に女性たちは十代の前半に結婚して家の外で活動することもあまりなかった。ところがこの文章を読んで、どういう印象を受ける？

[C] エヴァ・ホフマン『シュテットル』

[Redacted text block]



〔出典：エヴァ・ホフマン（小原雅俊訳）『シュテットルーポーランド・ユダヤ人の世界』みすず書房，2019年。なお，一部の表現を改めた。〕

生徒：そうですね。まず前半は，新しい生活スタイルが，小さな町にも一気になだれこんできたんだなと感じました。あと，女性のファッションや生き方も大きく変わったんですね。それらが「進歩」という言葉で表現されているのが印象的です。後半はいろんな組織の名前が出てきてよくわからないことありますが，小さな町にすらこれほどたくさんの組織ができるということは，やはりポーランドのユダヤ人が，積極的に政治に参加するようになったということなんですね。

先生：まさに！これだけ組織が乱立しているというのは，人びとの価値観が入り乱

れていて、なかなか一つにまとまりづらかったということでもあるんだけど、政治参加の拡大と大衆文化の広がりが根っこでつながっていることを示している事例だと思うんだ。でも、第一次世界大戦後の大衆民主主義はそうした「光」の部分だけじゃない。歴史総合の授業でも、大戦後のアメリカで成立した移民法で、日系移民が排除されたことを学んだよね。史料 [D] を読んでみよう。

[D] F・L・アレン「極右愛国主義者」

ヒステリー状態は急には静まらなかった。なぜなら、職業的な極右愛国主義者（および極右愛国主義を装うさまざまな宣伝屋たち）は、ようやく闘いを開始したばかりであったから。無数の愛国主義団体が出現し、それぞれに役員をかかえ、役員を食わせるためには、新しい、より強大な脅威という魔物をつくり出す必要があった。その他無数の「紳士」たちは、自分たちが打倒したいと望むものは何によらず、ボルシェヴィストの刷毛でそれとわかるようにタールを塗りつけさえすれば、打倒できることを知っていた。海軍拡張論者、徴兵制信奉者、禁酒主義者、禁煙活動家、進化論反対を唱える正統派信者（ファンダメンタリスト）、道徳秩序擁護者、出版検閲官、ユダヤ人排斥論者、黒人排斥論者、地主、小工場主、公共事業役員、その他毒にも薬にもならぬ主張の支持者たちが、「建国の父」のマントともいべき古い栄光を身にまとして、自分たちと対立するものはすべて ④ と同盟しているということにしてしまった。

〔中略〕 こうした流行病にかぶれて、演説家や作家たちは「革命を企てる凶悪な煽動者」についての物語ばかりを語って、国民を悩ましつづけた。右翼団体の役員たちは、飾り立てた応接間の金ぴかの椅子に腰掛けている老婦人にむかって、政府のスパイが新しく過激な陰謀を発見したが、計画があまりに凶悪なために適当な時期まで発表を控えているなどと吹き込んでいた。その夫たちは、昼食クラブで、大学はボルシェヴィズムの巣窟になっているなどと聞かされていた。疑いの雲が人びとの心をおおい、「不寛容」は、アメリカ人にとって美德になった。

〔出典：F・L・アレン（藤久ミネ訳）『オンリー・イエスタデイ—1920年代・アメリカ』筑摩書房、1986年。なお、一部の表現を改めた。〕

生徒：「ボルシェヴィスト」とか「ボルシェヴィズム」って何ですか？

先生：共産主義者、共産主義のことだね。本来はロシア革命で社会主義政権を打ち立てたグループだけど、ロシア革命を脅威に思う人たちは社会主義者や共産主義者をボリシェヴィストと呼んで悪魔のようなイメージをつくりあげた。

生徒：なるほど。この時期に排除されたのは日系移民だけじゃないんですね。共産主義者やユダヤ人、黒人なども排斥の対象になったと書いてあります。人びとの政治参加が広がったのは良いことかもしれないけど、その反動でさまざまな人びとを排除する勢力も強くなったんですね。

先生：その通りなんだ。歴史総合の教科書にも、「社会主義の排除、アジア系・南東欧系移民の排斥や差別、人種主義の強化」がもたらされたと書いてあったけど、大衆民主主義はときに、人びとを特定の方向に動員したり誘導したりすることがあるんだ。

生徒：でもそれってなぜなんでしょうか。史料 [B] で読んだように、大衆民主主義っていうのはどんな立場の人であっても、自分の頭で考えて政治に参加できる社会のことですよ。

先生：いい質問だね。大衆社会で大きな影響力を持つのはマス＝メディアだ。人びとはマス＝メディアを通じて世の中のことを知り、自分の意見をつくる。でもマス＝メディアには、⑤。それを見るために、史料 [E] を読んでみよう。さきほどの史料 [B] の続きだ。

[E] 佐藤卓己『キングの時代』

1940年9月、〔中略〕『キング』はキング編集局長名で告示を出している。

〔中略〕

「私共は編輯(へんしゅう)について斯く考えております。

○日本精神を作興(さっこう)したい。○時局の真相を伝えたい。○国策の伝令となりたい。○戦線銃後の連絡者となりたい。○時局生活に必要な常識を提供したい。○国民に健全にして明朗な慰安をもたらしたい。

依て以て、皇国の興隆発展に貢献したいと、一同日夜奮励致して居る次第であります」〔中略〕。

4月号「社説」では、「国策完遂協力運動」が宣言され、その第一歩として、「簡素生活の実行」が提唱された。1940年7月号「公を先に！私を後に！（社説）」では、食糧報国が掲げられた。〔中略〕

〔太平洋戦争〕開戦三日後、12月11日に印刷納本された『キング』1942年新年号の社説「国民の誓」には、「宣戦の大詔を拝し、謹んで天地神明に誓い奉ります」がすり込まれている。

さらに「愛読者各位へ」で、『キング』の使命が次のように宣言された。

「日本人の美德を総動員せよ！これがキングの使命の第一であります。更に時代の向かうところを明らかにし、国策の要求するところを日本の隅々まで伝える、これキングの使命の第二であります。更にまた時局下の最も健全な慰安となり明日の奮闘への活力となる、これキングの使命の第三であります」。

〔出典：佐藤卓己『キングの時代—国民大衆雑誌の公共性』岩波書店、2002年。
なお、一部の表現を現代仮名遣いに改めた。〕

生徒：「国策の伝令になりたい」というところがとくにショックです。『キング』創刊号の頃とはずいぶん違いますね。どんな立場の人でも、雑誌を通じてしっかり学んでいこうという方針だったはずなのに、戦時下では国策を伝える手段になっている。

先生：そこだね。そしてもう一つ、大衆消費文化や都市文化も一種の「国策」として利用されていくんだ。史料 [F] を読んでみよう。ナチスが「民族共同体」という人種による団結を生み出すために、どのようにして余暇を利用したのかについて説明している。

[F] 山本秀行『ナチズムの時代』

中部ドイツのケルレ村でおこなわれた聞き取り調査によれば、村人の二人に一人が、歓喜力行団が主催する海外旅行を楽しんだという。歓喜力行団（喜びを通じて力を）というのは、ドイツ労働戦線の一部局で、イタリアのドーポ・ラボーロ（労働のあとに）をまねてつくられた余暇組織である。

歓喜力行団の任務は、労働者を階級闘争から引き離し、「民族共同体」意識を育成し、業績社会の建設を宣伝することであった。テニスやスキー、観劇や、海外旅行、自家用車はブルジョワ階層のステータス・シンボルであったが、これを労働者でも手が届くものにする。これが歓喜力行団のスローガンであった。歓喜力行団は、1937年から国民車の開発に乗り出した。それが、あのフォルクスワーゲンである〔中略〕。

ナチスは、人々を、政治へ、街頭へ、パレードや大衆式典へ動員することに努力をかたむけた。しかし、こうしたやりかたに、国民はすぐ飽きてしまった。人々は、政治やナチズムから逃れて、気のおけない私的空間や、非政治的な領域への逃げ込みをはかった。ナチスのほうも、国民を引きつけておくために、もっとソフトな、非政治的な宣伝をこころがけるようになった。

歓喜力行団が国民の人気を集めたのも、他のナチ組織と違って、その活動への参加が、原則として自由意志に基づくものであったからである。ナチズムに批判的な人びとでも、自由意志と非政治性につられ、歓喜力行団を受け入れてしまっている。逆説的ではあるが、非政治性と政治から自由な空間は、ナチ体制への合意を形成する一つの回路の役割を果たしていたことになる。1936年のベルリン・オリンピックもそうしたものとみることができよう。

〔出典：山本秀行『ナチズムの時代』山川出版社，1998年。なお、一部の表現を改めた。〕

生徒：ナチスというと、この史料に書かれているように華々しいパレードや式典で人びとを惹きつけたというイメージがありました。でもそういうことよりも、旅行や自家用車みたいな、あまり政治的とは思われていないようなことのほうが、人びとを惹きつけるうえでは重要だったということですよ。それにオリンピックって、こんなものでもあるんだ！

先生：そう。「自由意志と非政治性」というところがポイントだよ。無理矢理押しつけられるんじゃないで、「旅行に行ってみたい！」「車が欲しい！」「スポーツ応援は楽しい！」と自分から思うこと。そして、それほど政治的ではないということ。この二つがあると、ナチ体制のやっていることにすべて賛成しているわけではない人たちでも、「ナチスも良いことをしているじゃないか」と徐々に取り込まれていってしまうんだね。

問1 空欄 にあてはまる言葉を答えなさい。〔5点〕

問2 空欄 には、1910年代から1920年代にかけて日本で高まった、政治的自由獲得を目指す潮流をさす言葉が入る。この言葉を答えなさい。〔5点〕

問3 下線部③に関連して、アジアやアフリカの従属国や植民地においても、第一次世界大戦を機に（一部のエリートに支えられていた）民族運動が大衆的に広がっていく動きがみられるようになった。生徒はそうした動きを理解するために、以下のような文献を読んでみようと考えた。このうち優先度が最も低い文献はどれか、(a)～(f)の中から一つ選びなさい。〔5点〕

- (a) 植民地における共産党の設立について
- (b) 植民地における産業発展の歴史について
- (c) 植民地都市の形成について
- (d) 植民地における自治要求の動きについて
- (e) 植民地における印刷物の出版状況について
- (f) 植民地における官僚制度の確立について

問4 空欄 には、1917年にロシアで十月（十一月）革命を起こし、社会主義政権を打ち立てた人物の名が入る。この人物の名を答えなさい。

〔5点〕

問5 大衆民主主義にもかかわらず、なぜ人々は特定の方向に動員されたり誘導されたりしやすくなったのかについて、先生はマス＝メディアの重要性を指摘している。空欄 に入るのにふさわしいと思われる説明を考え、40字以内で答えなさい。〔10点〕

問6 大衆化の時代に可能になった政治参加の拡大や、大衆文化の広がりには、どのような可能性と限界があったか。史料 [A] ～ [F]、先生と生徒の会話を踏まえて、300字以内で説明しなさい。また、以下の語句を必ず用い、使用した箇所すべてに下線を引きなさい。〔30点〕

女性の戦争協力 大衆的公共性 シュテットル 「不寛容」
「国策の伝令」 歓喜力行団

世界史探究

2

次の [A] ～ [F] は、第一次世界大戦後の国際秩序をめぐって、1918 年以降に書かれたものの抜粋である。これらの史料を読み、以下の問に答えなさい。〔90 点〕

[A] ウィルソン大統領のアメリカ合衆国議会宛教書 (14 カ条) (1918 年 1 月 8 日)

われわれが、この戦争の結末として要求することは、われわれに特殊なことではまったくありません。それは、世界が健全で安全に生活できる場となることであり、とりわけ、すべての平和愛好国家にとって安全となることです。〔中略〕世界中のあらゆる人々は、実質的に〔中略〕利害を共にする盟友であり、われわれは他の人々に正義が行われない限り、われわれにも正義はなされないということを明確に認識しています。世界平和の実現のための計画はしたがって、われわれの計画でもあります。そして、われわれの考える唯一可能な計画とは、以下のようなものです。〔中略〕

第 1 条 平和の盟約が^①公開のうちに合意された後は、外交はつねに正直に、公衆の見守る中で進められねばならず、いかなる私的な国際的了解事項もあってはならない。

第 5 条 すべての^②植民地に関する要求は、自由かつ偏見なしに、そして厳格な公正さをもって調整されねばならない。主権をめぐるあらゆる問題を決定する際には、対象となる人民の利害が、主権の決定をうけることになる政府の公正な要求と平等の重みをもつという原則を厳格に守らねばならない。〔中略〕

第 14 条 大国と小国とを問わず、政治的独立と領土的保全とを相互に保障することを目的とした明確な規約のもとに国家の一般的な連合が樹立されねばならない。

〔出典：歴史学研究会編『世界史史料^⑩ 20 世紀の世界 I』岩波書店、2006 年。
なお、一部の表現を改めた。〕

[B] ^③ホー＝チ＝ミン「反革命的な軍隊」(1923 年 9 月 7 日付、フランス労働総同盟の機関紙『ラ・ヴィ・ウーヴリエール』(パリ)に掲載)

植民地紛争が 1914-18 年の帝国主義戦争の重要な一因だったことをわれわ

れは知っている。〔中略〕

フランスの労働者階級の認識せねばならぬことは、植民地主義が労働者階級の側の解放のあらゆる試みを打ち敗るため、植民地に依存しているという事実である。多かれ少なかれ階級意識に感染した白人の兵にはもう絶対的信頼がおけないので、④フランスの軍国主義はその代わりにアフリカやアジアの原住民を使っている。フランス陸軍の 159 連隊のうち、10 は植民地の白人、すなわち半原住民、30 はアフリカ人、39 は他の植民地出身の原住民から成っており、こうしてフランス陸軍の半分は植民地から徴募されているのである。

〔出典：ベルナール・B・ファル編（内山敏訳）『ホー・チミン語録 民族解放のために』河出書房新社，1968 年。〕

[C] 国際連盟規約（1919 年 6 月 28 日調印）

締約国は、戦争に訴えないという義務を受諾し、各国間の開かれた公明正大な関係を定め、各国政府間の行為を律する現実の規準として⑤国際法の原則を確立し、組織された人々との相互の交渉において正義を保つとともにいっさいの条約上の義務を尊重することにより、国際協力を促進し各国間の平和と安全を達成することを目的として、この国際連盟規約に合意する。

〔中略〕

第 11 条 戦争または戦争の脅威は、連盟加盟国のいずれかに直接の影響がおよぶか否かを問わず、すべて連盟全体の利害関係事項であることをここに声明する。連盟は、国際的平和を擁護するために適当かつ有効と認められる措置をとる。〔中略〕

第 16 条 第 12 条、第 13 条または第 15 条における約束を無視して戦争に訴えた連盟加盟国は、当然他のすべての連盟加盟国に対して戦争行為を行ったものとみなされる。他のすべての連盟加盟国は、⑥その国とのいっさいの通商上または金融上の関係の断絶〔中略〕を、ただちに行う。

〔出典：歴史学研究会編『世界史史料⑩ 20 世紀の世界 I』岩波書店，2006 年。〕

[D] 中華民国全権代表団がヴェルサイユ講和条約調印拒否を本国に報告する電文（1919 年 6 月 28 日）

ヴェルサイユ講和条約の調印について。〔中略〕⑦山東問題の件で、我が国はつぎつぎに譲歩しました。最初は条約の本文に〔山東権益の返還を〕明記することを主張しましたが認められず、ついで条約のうしろに付記することを主張しましたが認められず、条約外に改めても認められず、わずかに声明するだけで文字にとどめるにはおよばないと主張しましたが、それでも認められませんでした。〔中略〕この件は、我が国の領土の完全および前途の安定ときわめて大きく関わっております。〔中略〕弱小国の交渉は、最初は争っても最後は譲歩するしかないというのが、ほとんど慣例となっております。今回、もしさらにこらえて調印すれば、我が国の前途はさらにいうべきものがなくなってしまうでしょう。〔中略〕詳しく検討しましたが、やむを得ず、当日は調印に行くのをやめました。

〔出典：歴史学研究会編『世界史史料⑩ 20世紀の世界 I』岩波書店、2006年。なお、一部の表現を改めた。〕

[E] ヤップ島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ関スル日米条約（1922年7月14日）

日本国およびアメリカ合衆国は〔中略〕、ドイツ国がヴェルサイユ条約にいう主たる同盟および連合国たる諸国〔中略〕のために、その海外属地に関する一切の権利および権原を放棄したることを思い、〔中略〕⑧4つの国〔中略〕は、ヴェルサイユ条約により太平洋中赤道以北に位する旧ドイツ領諸島群につき、以下の条項に準拠してその施政を行う〔こと〕の委任を日本国皇帝陛下に付与することに一致したることを思い、

第1条 日本国皇帝陛下（以下受任国と称す）に委任を付与したる諸島は、太平洋中赤道以北に位する旧ドイツ領諸島の全部を含む。

第2条 受任国は本委任統治条項による地域に対し、日本帝国の構成部分として施政および立法の全権を有すべく、かつ情況に応じ必要なる地方的変更を加えて、本地域に日本帝国の法規を適用することを得。

受任国は、本委任統治条項による地域の住民の物質的および精神的幸福ならびに社会的進歩を極力増進すべし。

〔出典：アジア歴史資料センターHP。なお、条文を現代仮名遣いに変更したほ

か、一部の表現を改めた。]

[F] ⑨パリ不戦条約 (1928年8月27日)

第1条 締約国は、国際紛争解決のために戦争に訴えることを非難し、かつ、その相互の関係において国家政策の手段として戦争を放棄することをその各々の人民の名において厳粛に宣言する。

第2条 締約国は、相互間に発生する紛争または衝突の処理または解決を、その性質または原因の如何を問わず、平和的手段以外で求めないことを約束する。

〔出典：歴史学研究会編『世界史史料⑩ 20世紀の世界 I』岩波書店、2006年。〕

問1 下線部①で「平和の盟約が公開のうちに合意された後は」、「外交は公衆の見守るなかで進められねばならず」と、戦後処理と外交過程が公開されるべきことを強調している。これは第一次世界大戦中の交戦国社会のどのような変化を反映したものか、40字以内で答えなさい。〔10点〕

問2 下線部②に関連して、イギリスは、戦争遂行にインドの協力が必要不可欠であるとの認識のもと、第一次世界大戦中、インドに戦後の自治を約束した。それを受けて制定された1919年インド統治法は実際には部分的な自治を定めるにとどまった。さらにイギリスは、反英運動を弾圧する法律をこの年に制定した。この法律の通称を答えなさい。〔5点〕

問3 下線部③の人物に先立ち、ベトナムの独立を目指す運動を展開し、維新会を結成してドンズー（東遊）運動を提唱した人物の名を答えなさい。〔5点〕

問4 下線部④に関連して、19世紀末フランスで、反ドイツ感情や排外的愛国主義の高まりを受けて元陸軍大臣が政権奪取をもくろみ、未遂に終わった。この出来事を何と呼ぶか。その名称を答えなさい。〔5点〕

問5 下線部⑤に関連して、『戦争と平和の法』（1625年）などの著作により国際法の発展に貢献した人物の名を答えなさい。〔5点〕

- 問6 下線部⑥に関連して、この規定にもとづく制裁が唯一発動されたのは、1935年に軍事侵攻を行ったイタリアに対してであった。しかしムッソリーニ政権による侵略行動が止まることはなく、その実効性の低さが露呈する結果となった。このときイタリアが侵攻した独立国の名を答えなさい。
〔5点〕
- 問7 下線部⑦に関連して、山東権益の返還などを求める中華民国の訴えが退けられたことに抗議して、北京から全国に拡大した運動の名を答えなさい。
〔5点〕
- 問8 下線部⑧の4つの国は国際連盟の当初の常任理事国である。この4つの国名をすべて答えなさい。〔5点〕
- 問9 下線部⑨の条約を、フランス外相の提案にこたえるかたちで提唱したアメリカの国務長官の名を答えなさい。〔5点〕
- 問10 ウィルソンが史料[A]で提示した第一次世界大戦後の国際秩序には、どのような可能性と限界があったか。史料[A]～[F]と、その後の歴史的経過をふまえて、400字以内で説明しなさい。また、以下の語句を必ず用い、使用した箇所すべてに下線を引きなさい。〔40点〕

植民地の戦争協力 経済制裁 二十一カ条の要求 パリ講和会議
戦争の違法化 ドイツ領南洋諸島

日本史探究

2

次の文章は、当時、貴族院議長であった近衛篤磨^{この え あつまる}（1863～1904年）^(注1)が、雑誌『太陽』の1898年1月号に発表した論説、「同人種同盟 附支那^(注2) 問題研究の必要」を現代語訳したものである。日清戦争によって決定的に変容した両国関係の将来を憂える近衛の文章を読み、以下の問に答えなさい。〔90点〕

最近日本人は、戦勝の勢いによって、しだいに驕慢の心を増長させ、ますます激しく中国人を軽侮するようになっていく。特に中国各地にいる日本人は、あたかもヨーロッパ人が中国人に接するような態度で中国人に應對し、①日本は東洋で唯一の文明国であり、中国の先を進む国であると思っている。確かに文明の制度を設け、文明の教育を施している点では、日本は中国の先を進んでいる。そのため、中国の知見を広げるべく指導し、中国が倒れないように文明によって支えることは大いに結構なことである。自分だけが先進国だといって、腹を立てるさまをみて喜んだり、うぬぼれたり、中国人を軽侮し、辱めを与えることで、かえって憎しみの感情をうけるのは、単に先進国としての度量に反するばかりか、対清政策の行動を大きく妨げることになる。その後世に残す禍根は、けっして小さくない。

私がみるには、東洋の前途は、人種競争の舞台になることを免れないだろう。たとえ一時の外交戦略によって、どのような変更があったとしても、それはあくまでも一時的な変更にすぎない。②最終的な運命は、黄白両人種の競争であり、この競争の下では、中国人も日本人も、ともに白人種の仇敵と見なされる立場に立つであろう。はるか遠い将来まで見通した計略を考える者は、この間に変化してゆく動静についても思案しておかなければならない。

最近のヨーロッパ列国の政治戦略は、どうやら異人種の征服という目的から損得を考えているようである。ヨーロッパ列強によるアフリカ経略^(注3)といい、オーストラリアや南洋への植民といい、あるいは南アメリカの開拓といい、どれをとっても異人種征服の機微を示している。しかし、ヨーロッパ列国とこれらの未開地^(注4)とでは、最初から著しい力の差があるため、征服するのは朽ち木を押し潰し、破れたものを打つほどたやすく、ほとんど無人の土地を進むようなもので、人種競争と呼ぶほどの事態にはならない。そのため、ヨーロッパ列国は土人^(注5)の征服に全く力を注ぐ必要がなく、列国は互いに、征服地の大小、占領地の大小を争う。そ

の結果、③人種の競争より、むしろヨーロッパの政略に起因する列国自身の競争となった。これが、今日の現状である。

そうはいつでも、列国が黄色人種に相対するのは、ほかの未開国に対する場合と、大いにその意味が異なっている。ヨーロッパ列国は一方で黄色人種の国を軽侮しつつも、他方で黄色人種に対しては多少の疑問を抱いている。特に日清戦争における日本人の技量をみて、黄色人種は侮りがたいと悟り始め、かえって大いに黄色人種を畏れている様子もある。たしかに黄色人種は、物質的な文明では、いうまでもなくヨーロッパ列国に遠く及ばない。この点で、今日、ヨーロッパ列国と競争するには不十分であるのはもちろんだが、体力の強弱や能力の優劣では、まだ安易に断定しうるものではない。ヨーロッパ人もまた、しばしばそのように言うものもある。したがって列国は、けっしてほかの未開地を征服する場合と同じ感覚で黄色人種の国に臨むことはできない。

中国分割の機がすでに到来したと、説く人もいる。列国に中国を分割する意図があるかないかについては、別の問題であるので、ここでは論じない。しかし、たとえ現時点では中国分割の危機が差し迫っていないとしても、その大勢はすでに定まっているものとして、すべての黄色人種国は、同じ人種を保護するための策を講じなければならない。列国は、ほかの未開地においては、人種競争のために同盟を結ぶ必要はない。しかし、中国に対しては、ほかの未開地におけるほど、思うように手腕を発揮することはできない。ほかの未開地に対しては、列国はそれぞれ単独でも容易に征服することができるが、どの国であっても、もし独力で中国を征服したいと思っても、おそらく無人の土地を歩むほど容易なことではないだろう。したがって、④中国分割が現実のものとなる時は、列国同盟が成立する時である。列国が同盟を結んで中国を分割する時は、すなわち黄白両人種の競争が終局を迎える時であり、その終局における日本人の運命としては、独り人種競争活劇の局外に立つことができるだろうか、いやできない。

⑤私は、思慮なく日本人がヨーロッパ人と合奏して、「支那亡国」の歌を歌うような軽薄さを嘆かわしいことと思っている。北京政府^(注6)の興亡は、たしかに日本人が喜んだり憂えたりするべきものではないが、中国人民の存亡は、けっして他人の喜びと悲しみではなく、また日本人自身の利害にも関係するものである。したがって日本人は、平生より友情をもって中国人に應對し、中国人を導き助け、中国人の知見を広げ指導し、その進歩を画策し、その発達を促すことを望み、中国人の日本人に対する猜疑心の払拭に努め、嫉妬心を取り除く手段を講じなければならない。

このようにすれば、中国人のほうもだんだんと日本人に親しみを感じ、日本人を頼りにする気持ちを抱き始め、人種保護の暗黙の合意が両国民の間に成立するに至るだろう。

最近中国から帰朝した某氏が私に語ったところによると、⑥北京政府は依然として頑固で正しい判断をできず無知で、その尊大で傲慢なさまは少しも昔と変わらない。敗戦に懲りて政治と軍事の制度を改革する意思すら欠けているばかりか、いまだに「中国主義」の旧夢（中華思想）から覚めず、今も国家の安危を考えないようなものである。しかし、北京以外の有力者は、秘かに三国同盟の陰謀を悟り、aの還付がかえって自国に災いをもたらす理由を思案し、⑦北京政府がすぐさまロシアの要求に応じようとする傾向を憂慮する者も少なくない。かの張之洞^(注7)などは、もっとも憂えている者の一人で、大いに中国の改革に励み、新たに機関紙を発行して、盛んに朝野の動きを警戒しているとの発言をしている。その勢力は、また侮ることができないものである。そして、上海地方の人民は、特に三国の野心を恐れ、日本を親しく思う気持ちが日に日に増しているようだという。私は、某氏の言葉が事実を誤認してはいないと信じている。というのも、これは必然の勢いとして、私がずっと以前から予想していたとおりだからである。

以上のような理由で、日本人は、今このような時に、是非ともその態度を慎み、中国問題の真相をよく研究して、百年の国家の大計を定めるために、けっしてむやみに動いて列国の策略にはまり、簡単に中国に対する立場を決めることがあってはならない。⑧今日最も大切なのは、まず中国問題を研究することである。それを研究しようと思えば、政治家であると有志家であるとを問わず、是非とも中国に遊学し、中国の上流社会と交際して両国の感情を融和させ、あるいは中国の内地を探検して風俗や人情を観察して、中国人を知り、中国の国勢を知ることが重要である。⑨日本人はよくヨーロッパに遊学し、ヨーロッパの事情に通じた者が少なくないものの、中国に遊学し中国の事情に通じる者はきわめて少ない。中国をよく知らずに中国問題への対応を決めようとしている。これは甚だ危険であり、私は未来に対して不安でぞっとしないではいられない。

（『太陽』第4巻第1号，1898年1月。）

〔注〕

- (1) 近衛篤磨……貴族院議長のほか、学習院院長や枢密院顧問官を歴任した政治家。東亜同文会を組織した。近衛文磨（1891～1945年）は子。
- (2) 支那……中国の各王朝と区別して、地域としての中国に対して主に近代の日本で使われた他称。「支那」「支那人」などの言葉が、蔑視のニュアンスを含む差別的な呼称としても用いられたため、現在は一般には使われない。歴史的資料としての表現を尊重し、原文のままとした。
- (3) 経略……国をおさめ、四方の敵地を攻めとること。
- (4) 未開……19世紀のヨーロッパには、人類を「文明」「野蛮」「未開」の三段階に分類する考え方があった。ヨーロッパの国々は「文明」に位置し、それ以外の地域が「野蛮国」や「未開地」「未開国」と呼ばれた。現在、このような分類は一般に使われない。
- (5) 土人……その土地に住んでいる人のこと。北海道旧土人保護法などの例が示すとおり、かつては法律のなかにも登場する用語であったが、現在は一般には使われない。歴史的資料としての表現を尊重し、原文のままとした。
- (6) 北京政府……清国政府のこと。
- (7) 張之洞……1837～1909年。清国の末期において、近代化の推進を説いた「洋務派」官僚の一人。著書に『勸学篇』などがある。

問1 下線部①に関連して、日本が「先進国」として認識されるようになった背景には、日清戦争における勝利に加え、欧米列強との関係の改善もあると考えられる。日清戦争の直前に締結され、領事裁判権の撤廃や関税率の引き上げなどを定めた条約は何か。その名称を答えなさい。〔5点〕

問2 下線部②に関連して、日露戦争後、アメリカで日本人移民に対する排斥運動が激化する。日本人学童の入学を拒否する事件が起きるなど、日本人移民排斥の中心になったアメリカの州はどこか。その州名を答えなさい。〔5点〕

問3 下線部③に関連して、この文章が雑誌『太陽』に掲載された1898年、キューバをめぐるアメリカとスペインの間で戦争が勃発した。戦争の結果、アメリカは東南アジアの一地域を獲得し、そこを1946年まで領有した。その地域はどこか。その地名を答えなさい。〔5点〕

- 問 4 下線部④の予想に反し、中国分割の際に「列国同盟」は形成されなかった。ヨーロッパ列国は、次々と個別に中国に対して租借地の割譲を要求した。また、アメリカの国務長官ジョン＝ヘイは、租借地を獲得した列国を牽制する内容の宣言を 1899 年に発した。この宣言でアメリカが列国に提案した原則とは何か。漢字四文字の言葉を二つ答えなさい。〔5 点〕
- 問 5 下線部⑤に関連して、朝鮮国内で起きた甲申事変（1884 年）への対応をめぐって日本と清国の関係が悪化した際、福沢諭吉は、「今日の^{はかりごと}謀を為すに、我国は隣国の開明を待て共に^{あじあ}亜細亜を興すの猶予ある^{べか}可らず、^{むし}寧ろ其^{その}伍を脱して西洋の文明国と進退を共に」（『時事新報』1885 年 3 月 16 日）するのがよいとする論説を発表していた。この論説の題名を答えなさい。〔5 点〕
- 問 6 下線部⑥に関連して、のちに「北京政府」は、「扶清滅洋」を掲げて蜂起した宗教結社に同調して列強に宣戦布告した。この宗教結社は何と呼ばれているか。その名称を答えなさい。〔5 点〕
- 問 7 空欄

a

 には、中国の地名が入る。その地名を答えなさい。〔5 点〕
- 問 8 いわゆる三国干渉後、下線部⑦に関連して、ロシアは清国から満州に鉄道を敷設する権利を獲得した。その東清鉄道は、モスクワからウラジヴォストークを結ぶロシア国内の路線を短縮する目的で建設された。他方でロシアを東西に横断する鉄道のほうは、何と呼ばれているか。その鉄道名を答えなさい。〔5 点〕
- 問 9 下線部⑧に関連して、近衛篤磨は、1898 年に東亜同文会を創立した。創立当初の東亜同文会には、政府の欧化政策を批判して官を辞し、1889 年に新聞『日本』を創刊した人物が加わっている。その人物とは誰か。その人名を答えなさい。〔5 点〕
- 問 10 下線部⑨に関連して、1871 年に岩倉使節団とともに横浜を出港してフラン

スに渡り，帰国後にルソーの『社会契約論』を『民約訳解』として翻訳した人物は誰か。その人名を答えなさい。〔5点〕

問 11 近衛篤磨が日本人による中国人の軽侮を嘆いた背景には，両国関係の変容がある。日清両国が欧米列強を中心とした国際秩序に組み込まれるなか，中国を頂点とした旧来の東アジア秩序は崩壊していった。特に日清修好条規の締結から日清戦争の終結にかけ，日清両国の関係がどのように変容したのか，400字以内で説明しなさい。その際，以下の5つの語句を必ず使用し，用いた箇所すべてに下線を引きなさい。なお，天津条約とは，1885年に日本と中国の間で締結されたものをさす。〔40点〕

日清修好条規 琉球処分 天津条約 甲午農民戦争 下関条約